

銀漢亭日録



伊藤伊那男

10月11日(月) ▼快晴。九時半、窪田氏が迎えに来て、真田の里へ案内して下さる。真田氏歴史館、館跡。真田氏本城跡。長谷寺など。

あと、「そば茶屋さくら」にて、蕎麦御膳の昼食。新蕎麦の更科は芸術品。地元茸の天麩羅なども。東御市の窪田氏のご自宅訪ねる。秋の草々多し。海野宿の町並みを見て駅まで送って戴く。

12日(火) ▼夜、発行所にて「火の会」の九人。近所で飲む。飲みすぎたか……。

14日(木) ▼午後、飯田橋の角川ビルにて「俳句年鑑」の合評鼎談の司会。これで十三回終了。なかなか気を使う作業であった。あと神楽坂のうなぎ割烹「志満金」にて馳走になる。

15日(金) ▼「第二十八回俳句大賞」(俳人協会)の特選評。「大倉句会十周年記念誌」にエッセイなど。「銀漢」十二月号の選句など。角川「俳句」合評鼎談十二月号の校正。

16日(土) ▼「あ・ん・ど・うクリニック」で区健康診断受診。「銀漢賞」の選考に入る。

17日(日) ▼「銀漢」のエッセイ。自句自解、日録など投函。O氏句集の序文初案執筆す。

19日(火) ▼十三時、俳人協会にて「第二十八回俳句大賞」の最終選考。リモート参加の三人を加えて七人。

20日(水) ▼八時、幕張。伊那北同期の北原泰明君の車で二人旅。

箱ばかり。十四時過ぎまで。あと大三島大山祇神社参拝。国宝館見学。「伯方の塩温泉 マーレ グラッシア大三島」で日没を見る。「お食事処くろしお」の平日料理の夕食。刺身、天麩羅、炊き込みご飯、戻って酒置歓談。

27日(水) ▼八時過ぎからオリーブの収穫。昨日より厳しい作業。戻って選別作業。夕食後も続き、十二時位まで。七十kgを五十kg位まで選別。

28日(木) ▼九時半発。「ポバイズクラブ」というオリーブ農園の精油場へオリーブを運ぶ。油になるのは重量の七%。絞り代金として半量を渡すので、二弱が生産者の手元へ製品として入る。エキストラバージンオイルは摘果後、二十四時間以内に絞ったものにて、超貴重品である。あと、能島水車の能島城へ遊覧船に乗る。私は二度目。大三島に戻り、盛港から船で呉線の忠海へ向かう。武田夫妻に見送っていた。忠海駅で洋征、井蛙さんと別れ、呉に向かう。「大和ミュージアム」を閉館まで一時間半ほど見学。「呉ステーションホテル」に荷を置き、繁華街へ。「かしま本店」という店へ入る。刺身盛り合わせ(太刀魚、平目、鯛、佳。牡蠣フライ七個、八百四十円はさすがに地元価格。酒は「賀茂鶴」。町の地図を見ると市庁舎の下川沿いにテント張りの屋台が何軒かある由にて捜す。「だるま」という赤いテントの店。おでんと酒。

29日(金) ▼九時過ぎ、広島市。タクシードで広島城。歩いて原爆ドーム。この時間なら行けそうだと見て広電で宮島へ。乗船場で大三島で別れた真理子さんとすれ違う。厳島神社参拝後、ロープウェイを乗り継いで弥山へ。眺望可。霊力のありそうな巨石。戻って参道で

昼、大内宿。薄紅葉、小雨。寒い。芋と片栗粉の焼餅。十四時過ぎ、会津若松城。三十五年振り位か。飯盛山、西郷頼母屋敷などは泰明君、歩きたくないとの車の中。「会津ワシントンホテル」に荷を解き、行き当たりばったりで「のみくい処作蔵」。馬刺し、鰯山椒漬、みがき鰯の天麩羅など。酒を飲まない人と居酒屋にいるのは初めて。別れて「上酒林」という店。焼鳥、鰯山椒漬など。二十時半にはホテルに戻る。

21日(木) ▼朝食佳し。八時発、磐梯山は初冠雪! 安達太良山の裏に廻るが、磐梯吾妻スカイラインは不通とて、土湯温泉を廻って猪苗代湖を見て郡山へ。途中、里芋、茸の塩漬など購入。郡山の「蕎麦処ことう屋」という蕎麦屋。板蕎麦うまい。大当たり! いわきから高速度で幕張駅。七百数十km走ったと。

23日(土) ▼日暮りの「夕焼け酒場」で第二回「銀漢亭の日」。十五時、開店。二十五人の仲間集合。料理四品ほど持参。政三さんが焼き秋刀魚、刺身、鮎の炊き込みご飯など。光江、井蛙、清人さんがヴーヴクリコ持参。乾杯! 二十二時、お開きとす。

24日(日) ▼終日執筆。十二月号の「銀漢」原稿全て終了。十八時、近所のN家にて三家族で夕食。

25日(月) ▼九時頃の新幹線に乗車。大三島の武田編集長のオリーブ収穫の手伝いを名目の旅。車中で雑用、エッセイ一本など。雨中、福山城を見学。十六時のバスにて大三島へ。武田さんの迎えを受けて花果さん生家。私は三回目の訪問。椋原洋征、飯田真理子、大野田井蛙さん集まり、花果さんの料理で酒盛り。

26日(火) ▼八時過ぎから、蜜柑畑で収穫。十kgのダンボールに四十

牡蠣を食し大慌てで広島駅へ。0時帰宅。

30日(土) ▼返信、選句、その他雑用多し。丸々五日間留守をしたのだから……。

31日(日) ▼角川合評鼎談の俳句年鑑用の校正。俳人協会「俳句大賞」の選後評、原稿の校正。新幹線の中で擲り書きのエッセイ二本纏める。

11月1日(月) ▼「伊那北会」。十時半、東武線南栗橋駅。栗橋城跡を訪ねる。元栗橋にてかなり迷うが、松本家という農家の中にその痕跡を見る。屋敷林の中に土塁跡が鮮明。JR栗橋駅に出て静御前の墓。五十年振り。前はもつとひっそりとしていた……。古河に出て古河城跡を散策。ここは二年振り。城の大半が明治の渡良瀬川改修工事で川の中。鎌倉時代の古河公方館跡は公園の中(鴻巣館)。駅前の居酒屋で打ち上げ。

2日(火) ▼十四時半、文京区民センター。「春耕」五十五周年記念号の座談会に呼ばれる。篠目良雨、池内けい吾、袖口満、児玉真知子さん。盤水、波朗氏の思い出話や俳句界の現況など。終わって日本橋詰の「天松」(田中里香同人の店)にて親睦会。実にいい天麩羅を馳走になる。良雨さん持ち込みの「久保田 萬寿」の一升瓶を空ける。あと神保町の「魚勝」に寄り、一杯だけ……。

4日(木) ▼午後、発行所。「銀漢賞」予選委員会。大和、禪次、真理子。静男欠席。十六時過、成城へ戻る。一息入れたい時にて、駅前の「街かど酒場さんたろう」。ホッピーで串カツ、牡蠣フライ、ポテトサラダ、玉葱スライス、冷奴。日本酒少々。帰宅して十八時には寝てしまふ。